

二回
世考

二科會と文展(上)

碧梧桐

の二科會

文展の油畫と對抗すゝ意味の上うらゝ、二三子の作
を除くは、随分突飛な殊更な異色を立てゝ位まで持
つてゐるが、今年のも三回子なつて、それをおつと
落着いて来た。変つたものを書かゝとすゝすゝと、
銘々のおつてゐるものも掘んで行かゝとすゝ其面目
さかほのめゝゐる。フワ〜してゐたものが、何だ
か握り所を得た形になつた。言はずに胸あすわつたの

122

5
10
15
20